

地域・保護者の実態	学校教育目標	児童の実態
<ul style="list-style-type: none"> ・PTA組織が確立しており、活発に活動している。 ・青少協を中心に、地域との結びつきが強く、児童の健全育成に向けて取り組んでいる。 	<p>21世紀をたくましく生きる</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎やさしく（心情豊かで 思いやりや感謝の気持ちをもつ子） ○かしこく（自ら学び、考え、表現する子） ○たくましく（心身共に健康で 最後まで頑張る子） 	<ul style="list-style-type: none"> ・素直で明るく、友だちと仲良くできる子が多い。 ・語彙力がやや乏しく表現力が弱い面も見られる。

各教科の重点	学力に関する学校経営方針	道徳教育の重点
<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的・基本的な内容の定着を図る。 ・体験的・問題解決的な学習を充実させ、思考力・判断力・表現力を育成する。 ・「話す」「聞く」活動の重視と児童相互の学び合い活動を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的・基本的内容の定着を図ると共に、習熟・活用・探究型学習を組み込んだ授業づくりを推進し、家庭学習を徹底させ学力の向上を図る。 ・児童の実態に合わせた学習過程をもとに、一人一人に「できる喜び」「わかる楽しさ」を味わわせ、学習への意欲をもたせる。 ・指導法の充実・改善に努め、言語活動を豊かにして児童の表現力やコミュニケーション能力を高めると共に、自ら考え、自ら学ぶ児童の育成を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳の時間と各教科との関連を重視し、道徳的実践力を育てる。 ・体験を通して道徳的心情を育成する。 ・道徳的判断力・規範意識を育成する。

総合的な学習の時間の重点	生活指導の重点	特別活動の重点	進路指導の重点
<ul style="list-style-type: none"> ・課題設定力や課題解決力を培う。 ・人、もの、自然、地域とかわる活動を通して、学ぶ意欲を高め、学び方を身に付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつの励行と正しい言葉使いを身に付けさせ、基本的な生活習慣の定着を図る。 ・いじめ等の問題行動の早期発見、早期対応に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自主性・実践力のある児童を育成する。 ・学校の一員として、自覚を高め、よりよい生活を築こうとする態度を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己理解と自己実現の意欲を促す。 ・本物や達人と出会う機会を多くもち、人としての生き方を学ぶ場とする。

学力向上のための指導の重点	
<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間の授業のねらいの明確化 ・基礎的・基本的事項の徹底と個に応じた指導の充実 ・P（計画）・D（実行）・C（評価）・A（改善）サイクルの充実 ・習熟・活用・探究型授業を意識した指導の工夫 ・体験的・問題解決的な学習（活動）の意図的・計画的な実施 ・指導と評価、支援の一体化 	

本校の授業改善に向けた視点				
I 指導内容・指導方法の工夫	II 教育課程編成の工夫	III 校内研究の活用	IV 評価活動の工夫	V 家庭・地域との連携
<ul style="list-style-type: none"> ■ 少人数指導の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・算数について、習熟度別学習の実施 ・補充・発展学習の工夫 ■ 年2回（夏・冬）の学習教室の実施 ■ ねらいを明確にした授業の実施 ■ ピアティーチャー、学生ボランティア、図書館司書、ICT支援員の活用 ■ 教育ボランティアの積極的導入 ■ 年間指導計画の見直しと完全実施 ■ 「東京ベ－シック・ドリル」及び「アプリ版東京ベ－シック・ドリル」の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 朝学習の実施 ■ 全校朝読書の実施（毎火） ■ 授業時数の確保 ■ 体験的・問題解決的な学習（活動）の重視 ■ 読書週間の実施（年間2回） ■ ぐんぐんタイムの実施「東京ベ－シック・ドリル」及び「アプリ版東京ベ－シック・ドリル」の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 校内研究の充実 <ul style="list-style-type: none"> 「ひとりひとりが安心できる学級集団をめざして」をテーマにQ&Uを用いて、満足度の高い学級集団作りの実践。 ■ 若手研修・OJT <ul style="list-style-type: none"> 年3回のOJT週間と、若手研修の計画・推進 ■ 校内研修会 <ul style="list-style-type: none"> 校内研究をより充実させるための研修や、喫緊の課題に対する研修を年4回実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 授業の振り返りの時間の確保（指導と評価と支援の一体化） ■ 学校自己評価の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・教職員アンケートの活用 ・児童アンケートの活用 ・保護者・地域アンケートの活用 ■ 評価規準の活用と見直し 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 授業改善推進プランの公開 ■ 家庭学習の定着 ■ PTA・地域の方による、全学年への読み聞かせ活動 ■ 教育ボランティアとしての学習支援 ■ 保護者と連携した校内整備 ■ 地域行事の参加 <ul style="list-style-type: none"> ・夏祭り ・ほっこりコンサート ・地域運動会等